

2021年
6月23日号
NO 3号



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYA OYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習



6月30日のじんけん楽習塾は「目で見て、気づいて、考えて——色覚問題とあなたのつながり——」がテーマです。講師は尾家宏昭さん（しきかく学習カラーメイト代表）です。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が解除されましたので、安中人権コミュニティセンターで開催します。ZOOMによるオンライン配信もしますが、今回は体験学習が中心で、オンラインによる配信の限界もあるかと思えます。ご了承ください。なお会場参加者は700円の参加費がかかります。オンラインはこちらの配信力量の限界もあり無料です。

会場参加者は20名以内になります。必ず、申し込みください。当日の突然の参加はお断りします。

みんなのふりかえり 3回目 6/16

山田 實さん (NPO 法人釜ヶ崎支援機構)
テーマ
「釜ヶ崎の歴史と今～」



6月16日のじんけん楽習塾は「釜ヶ崎」がテーマでした。釜ヶ崎支援機構の山田さんが話してくれました。



■ すごく印象に残ったのが、視察？に来た海外の人たちが、世界のスラムと釜ヶ崎はちがうといったこと。世界のスラムは、家族があり、子どもがいて、生活の匂いがある。けれど、釜ヶ崎は男性が集められ、女、子どもはほとんど

いない。すごく孤独な街なのかもしれない。その成り立ちの話でも、実質、行政が労働者を全国から集めてきたとのこと。もしかしたら、万博やらで、労働者をかき集め、使い捨ての労働力のような状態になったのかもしれない。けれど、社会は釜ヶ崎に偏見をもち、見下げ、差別する。

私の父は、生活している場所で土木作業の仕事がなくなると、釜ヶ崎に仕事を探しに行っていた。私がほんとに幼い時、島根だと思うがそこから父が行方不明になり、釜ヶ崎のタコ部屋にいた父を探し出したと、母が言っていたことを思い出す。(探し出した母もすごい。)

私は正直なところ、貧乏な地域で育ったが、そこにはきっちり、ホームレスや、釜ヶ崎への偏見は存在していた。また、会社員だった時、環状線、新今宮の駅で酒に酔っ払った労働者が、大きな声で「朝鮮人かえれ」と叫んでいたことも思い出す。貧しいものが手をつなぐと

オンライン参加のみなさんへ

- 研修参加の際は、入室後は、映像はオンの状態で願います。(休憩中はオフでも大丈夫です。)
- 研修参加の際は、こちらが指示するまでマイクはミュートでの参加をお願いします。
- ZOOMに入室できない等でお困りの時は八尾市人権協会 072-924-9853 にお電話ください。
- 連絡は、ZOOMに入室後の連絡は、ホスト(事務局)あてチャット機能をお使いください。



というのは難しい。きれいにはいかない。けれど、それを乗り越えつながりたい思いを持つことが大切なんだと思う。

■正業に就かない者が差別されるなら、私も同じ立場です。周囲には、障害を持つためにやむなく働けない人が多いけれど、いまだに生活保護の受給を恥とする考え方が根強く、社会とつながりにくい現実もあります。釜ヶ崎の人も働きたくても働けず、国に利用されて、人間らしい生活を奪われてきたのだから、国が解決すべき人権課題だと初めて学びました。西成に対する偏見を私自身も身につけてしまっていたので、まずは実際に現地に行って、そこでの取り組みとつながりたいと思います。

■8世紀の律令から最後は宇宙も登場し、時空を超えたスケールの大きな講演でした。1300年前の国家の法律で浮浪者は犯罪者と同一視され刑罰を受けたことに驚きましたが、確実に税を徴収し、兵役を課すために戸籍によって管理し、その枠組みから外れた人々が犯罪者とみなされた、と納得しました。現代でも、様々な理由で困窮しホームレスになることを余儀なくされた方々がいますが、その人たちを差別・襲撃・殺害する人々(若者を含む)の姿に律令時代からの歴史的影響も尾を引いていることを、感じます。また、入管で収容されている難民申請中の方々が犯罪者並みに扱われているとの報道にも、思いが及びます。1970年の大阪万博に短期間の非正規雇用で働く人々を国策事業動員型で集めた使い捨て政策が、家庭を築くという人間らしい生活を奪い、釜ヶ崎を男性単身者のまちにし、それがバブル崩壊まで続き、現在福祉のまちとも言わ

れる釜ヶ崎の現状に至る経過が理解できました。2025年の大阪万博では短期非正規雇用に外国人技能実習生が大幅に集められることは、容易に想像できます。最後にクラウドファンディングを使った若者支援で企業の論理にからめとられない働き方に関するお話があり、大いに希望を感じました。

♪ 弱者にも 強者にとっても 受け皿に

■働くことは生きること、つくづく感じました。社会的弱者が働く場や機会を奪われることは理不尽だし、今の就職状況にしても能力・適正以外のことで判断され、泣き寝入りせざるを得ないことがたくさんあるんだと思います。だれもが「ともに働く」という観点をもって、そんな社会の仕組みを見直すためにも、それはおかしいと声をあげ、小さな声にも耳を傾け、寄り添うことのできる力をもちたいです。



連絡

毎回ふりかえり用紙をくばります。オンラインの場合はファイルを送ります。後でメール/ファックスでもいいので送ってください。お願いします。通信に反映させたいと思います。(公開だめなものはオープンにしません)

写真を撮影しますが、OYA OYA 通信、八尾市人権協会のホームページなどで使用する場合があります。なるべく個人が特定しにくいものをご考えていますが、困るという方は事務局に申しつけてください。